

発行 法政大学での学生弾圧（暴処法弾圧）に抗議し、8学生の即時釈放を求める全国声明 事務局

【呼びかけ人】入江史郎（スタンダード・ヴァキューム石油自主労働組合・中央執行委員長）／西川重則（平和遺族会全国連絡会代表）／高 英男（全日本建設運輸連帯労働組合関西地区生コン支部・副執行委員長）／田中康宏（国鉄千葉動力車労働組合・執行委員長）／中野 洋（国鉄千葉動力車労働組合・常任顧問）／足立昌勝（関東学院大学教授）／荻野富士夫（小樽商科大学教授）／富山一郎（大阪大学教授）／高山俊吉（裁判員制度はいらない！大運動・弁護士）／葉山岳夫（救援連絡センター代表弁護士）／鈴木達夫（国労5・27臨大闘争弾圧裁判主任弁護人）／内海亮子（法大生・内海佑一君の家族）／織田美喜子（東北大生・織田陽介君の家族）／恩田英一（法大生・恩田亮君の家族）／倉岡靖子（法大生・倉岡雅美さんの家族）／斎藤真人（法大生・斎藤郁真君の家族）／増井誠一郎（法大生・増井真琴君の家族）

【連絡先】国鉄千葉動力車労働組合 〒260-0017 千葉市中央区要町2-8 DC会館内  
電話 043-222-7207 FAX 043-224-7197

## 暴処法を粉碎し、11月労働者集会へ！

法大暴処法弾圧被告、全学連委員長 織田陽介（東京拘置所在監）



救援活動へのご支援、さらにはあらゆる獄外での闘いに支えられ、日々獄中闘争を元気に闘い抜くことができます。本当にありがとうございます。

私が訴えたいことは、「法大弾圧粉碎！8学生奪還！」の声を、動労千葉が呼びかける11月労働者集会の1万人結集に結びつけたいということです。

もとより、暴処法という戦時型の弾圧という性格、それに加えて私たちがやってきた闘いの大きさを確認を持って振り返ってみるに、今回の弾圧は生半可な攻撃ではないと思っています。

「公安条例違反」で逮捕し、23日間の

法政大学での学生弾圧（暴処法弾圧）に抗議し、8学生の即時釈放を求める全国声明 賛同数

**3503** 個人・団体  
(9/7)

「取り調べ」をした後に、別の容疑での起訴。自宅まで出向いての逮捕の後に「住所不詳」として東京拘置所に閉じ込めるあり方。法の名による違法行為、白は黒に、正義は悪になる。もはや法に道理はありません。いや、その本性を明らかにしたというべきか！ 裁判員制度はその正当性を語ることもできず、「決まったことだ」と繰り返すのみ。そして法は戦争という破滅を強制へと高める。裁判所自らが戦後憲法とその法体系に死を宣告し、戦前を懐古する。暴処法に込められた全体構

### 第1回公判に大結集を！

#### ■ 暴処法弾圧グループ（刑事1部）

恩田、増井、織田、内海、新井  
→10月5日（月）13時半～

#### ■ 4・24集会弾圧グループ

（刑事17部）

斎藤、恩田、増井、倉岡、富山、内海  
→10月7日（水）13時半～

※場所はいずれも東京地裁です。傍聴券の抽選があるので1時間前に正門前に集合してください。

造と私たちは真正面から対決したいと考えます。

他方で敵の政治権力はグラグラです。彼らを追い詰める度合いに応じて法大闘争を含めたあらゆる闘いの前進が勝ち取られると確信します。民主党が自民党を破って政権を握るための力はただ一点、政権を握った次の日から徹底的に弾圧すべき相手である私たち労働者・学生・農民の怒りを8月30日のその日まで徹底的に引き出すことです。民主から社民、共産にいたるまでの政党への投票、白票、棄権まですべて労働者階級の怒りの意思表示です。新聞を見ても政治権力は社会のことを何も知らない坊ちゃんたちの手に独占され、解決の手段を知る労働者は力を奪われているという転倒がハッキリしています。労働者自身が労働組合のもとに団結し、あらゆるニセ者の政党と対決する政治潮流、政党を作り出し、自らの行動方針を持ち、一票に落とし込まれてきた現状を打ち破って行動に立ち上

がるなら、必ずこの社会を根底から変えることができるかと確信しています。そしてその時が来た。いや私たちが引き寄せたというべきでしょう。こうした力をすべて11月集会に結集させたい。法大弾圧を弾劾し、8学生の即時釈放を求める全国声明がこの力を作り出す一助になればと思います。獄中からも心をひとつに闘いに立ち上がります。

もうひとつ、現在歴史的に最も重要な学生団体のうちのふたつであろう法大文化連盟と全学連の三役がそろって逮捕・拘留されているという弾圧の性格です。なんとしても8人に続くリーダーを生み出し、110名の逮捕によって彼ら国家権力が何を生み出してしまったのかを思い知らせてやりたい。法大弾圧への支援とともに法大闘争そのものへの温かく、また厳しい連帯をお願いしたいです。

それでは、暴処法を粉碎し、笑顔で再会しましょう！

(8月23日)

(※11月集会の案内は5ページに掲載します)

## **大学を、教育を、労働者・学生の手に取り戻そう！ 10月から始まる歴史的裁判を一緒にたたかおう！**

8月30日の総選挙で、私たち労働者、学生、農民の力は腐りきった自民党を打ち倒しました。この情勢のもとで、これ以上8学生を獄中に留めておくことは絶対に認められません。不当に勾留され続けている8名こそ、自民党による新自由主義政策と真っ向から闘い抜いてきた存在だからです。

法政大学では、キャンパスが経営者・理事会の金儲けの場とされ、おかしいことにおかしいといった学生が処分され、逮捕され、起訴されてきました。これに対し、文化連盟委員長の齋藤君は、「本来、大学とはよりよき社会を構想し、時には思想・意

見の違いをぶつけ合い、止揚し、社会に出て行く、そういう発展教育の場」だと訴えてきました。闘いの中で彼らがつかみ取った「ひとりの仲間も見捨てない」「教育をとり戻そう」というスローガンは、一握りの金持ちが生き延びるために、青年たちの未来を奪ってきた新自由主義を根本から批判し、労働者・学生の団結こそが新しい社会をつくりだすことを訴えています。

10月5日から始まる裁判は、8名とともに未来を切り開く歴史的裁判闘争になります。みなさん！ ぜひ裁判にかけつけ、ともに闘い、8名を取り戻しましょう！

## ★暴処法弾圧グループ

( 刑事 1 部 ・ 秋吉裁判長 )

### 第 1 回 公判 期 日

→ 1 0 月 5 日 ( 月 ) 午 後 1 時 半



恩田 亮 くん



織田 陽 介 くん



増井 真 琴 くん



内海 佑 一 くん



新井 拓 くん

＊東京地裁は、弁護団の統一公判要求を踏みにじり、8名の裁判をふたつに分離しています。絶対に許せません。東京地裁を取り囲む裁判闘争で反撃しよう！

## ★4・24弾圧グループ

( 刑 事 1 7 部 ・ 登 石 裁 判 長 )

### 第 1 回 公 判 期 日

→ 1 0 月 7 日 ( 水 ) 午 後 1 時 半



齋藤 郁 真 くん



恩田 亮 くん



増井 真 琴 くん



倉岡 雅 美 さん



富山 小 太 郎 くん



内海 佑 一 くん

## 東京地裁への行き方

所在地：東京都千代田区霞が関1-1-4 (右地図)

▼東京メトロ丸の内線・日比谷線・千代田線「霞ヶ関駅」

A 1 出口から徒歩 1 分

▼東京メトロ有楽町線「桜田門駅」

5 番出口から徒歩約 3 分



# ● 暴処法弾圧を粉碎し、世界的動乱を押しひらこう! ●

文化連盟副委員長の恩田亮くん（東京拘置所在監）が、第70回全学連定期全国大会に寄せたアピールから抜粋して紹介します（見出し・編集／事務局）

現代の台頭イデオロギーである新自由主義への反発は至るところで蜂起となっ



て表面化し、こと学園においては政治先進国フランス、そしてアメリカに至るまで多くの学生たちが「教育を取り戻せ」のスローガンの下、ストライキや校舎占拠の決起行動を展開している。先の4・24法大解放総決起集会もこれら世界の学生運動との国際連帯行動であった。インターネットでの呼びかけに正式に応じている。世界的な混乱、換言すれば「革命情勢」なわけだが、これは独りよがりでも妄想でもない真実であることを証明するのが今般の国家権力による弾圧である。戦前の京都学連事件を彷彿とさせる検察庁陣頭指揮の弾圧。不当逮捕された学生の友人・知人への強制的な事情聴取と家宅搜索の強行。昼夜を問わずの長時間の拷問的参考人聴取で供述調書を取るのとは東京地検特捜部（通称、鬼の特捜）が政治家や財界の大物を落とす時に用いる常套手段だ。同じ手口を思想検事が取ることの政治的意図には留意せざるを得ない。加えて、暴処法という天下の悪法の適用。学生運動に暴処法が適用されるのはかの東大ポロ事件に次いで法大闘争が2例目なのだ。戦前戦中に治安維持法という悪名高い弾圧法とセットで暴処法は猛威をふるい、多くの人間が犠牲になった。戦後、「異常状態」から脱したこの国は暴処法の使用には慎重になり、同時に暴処法は議論の的となり運用を制約する通念が生まれ、同法が憲法31条に抵触するという認識が検察官を除く法曹関係者間で広く共有されるに至っている。その悪法が発動されたという事実の重大性と危険性は計り知れない。

間が犠牲になった。戦後、「異常状態」から脱したこの国は暴処法の使用には慎重になり、同時に暴処法は議論の的となり運用を制約する通念が生まれ、同法が憲法31条に抵触するという認識が検察官を除く法曹関係者間で広く共有されるに至っている。その悪法が発動されたという事実の重大性と危険性は計り知れない。

これだけ書けば充分であろう。我々の情勢分析は明らかに的を射ている。世界の動乱が引火した時に震源地となり得る法大闘争に、国家権力は全力で予防弾圧をかけているのである。権力の一角である裁判所。先日の（法大闘争裁判における）反動判決で、司法は「ジャージ部隊の暴力を容認」し、「一定必要である」と言明。抗議行動は「教育環境を破壊する」とまで言っている。それほどまでに国家権力の弾圧の比重は大きいのだ。

この巨大組織による攻撃に対抗するためには大同団結しかない。一個人が大組織を潰すなんてのはマンガの世界の話だ。ゆえに志ある学友は全学連・文連の下に結集し共同戦線をはって欲しい。

## ◆ 東大ポロ事件とは？ ◆

1952年2月20日、東京大学本郷キャンパスの教室において、学生団体「ポロ劇団」が演劇上演中に、観客の中に本富士警察署の警官4名が私服で潜入しているのを発見。これらの警察官3名の身柄を拘束して警察手帳を奪い、暴行を加えたとして、暴力行為等処罰ニ関スル法律により起訴されたものの。

一審、二審は、学生の行為が大学の自治を守るためのものであるゆえに正当であるとし、学生を無罪とした。しかし、最高裁は原審を破棄し、東京地裁に差し戻した。差し戻し後、一審で被告人は有罪判決を受け、控訴・上告も棄却された。



「法政大学での学生弾圧（暴処法弾圧）に抗議し、8学生の即時釈放を求める全国声明」に全国各地から賛同メッセージが寄せられています。一部ですが紹介させていただきます。

（順不同、敬称略）

◇松元ヒロ（コメディアン） 何の非もない彼らを弾圧するなんて！ 法大に学問の自由と思想の自由を！

◇伊藤信晴（三里塚芝山連合空港反対同盟事務局員） 8学生のみなさん、みなさんの闘いが暴処法をひきだし、それをつきぬける獄中闘争。大きな勇気をもらっています。私たち反対同盟もつづきます。

◇木村郁夫（国鉄水戸動力車労働組合書記長）  
仲間との団結にかけきって闘う学生の闘いは、階級的労働運動を甦らせる大きな力だ。戦争と大失業攻撃と闘う労働者こそ、法大暴処法弾圧を許さず、8学生を奪還するために闘おう！ 階級的団結で社会を変革しよう。

◇植野凌平（学生） いま、日本で現実起こっていることをマスメディアを通してしか知らなかった自分ですが、これからはもっと幅広い視点を持ってこの社会を見ていきたいです。自分にこのような変化を与えてくださったことを感謝します。

◇谷川静子（主婦） 全くびっくりしました。

賛同署名も続々集まっています！

- 三里塚芝山連合空港反対同盟が団体賛同。
- スタンダード・ヴァキューム石油自主労働組合や国鉄水戸動力車労働組合の組合員の皆さんが賛同。
- リサイクルショップ「たみとや」さん（東京・目黒区）は、お店で100名の賛同署名を集めました。

大学は自校の学生をうってはいけません。法政大学は権力の力をもって学生をいじめるとは何事か！ 昭和世代には考えられない行動です。赤子の手をひねるよりイージーな行為→もっとやることがたくさんあると思う。警察はこんな楽なお仕事をしていて良いのか。税金泥ボーを許してはいけませぬ。即時解放と共に学生を売った大学に責任をとらせましょう。

◇土居文雄（真宗大谷派長恩寺住職） 学生たちの心からなる純粋な社会批判を封じ込め、抑圧して一体何を成し遂げようとするのか。物言わぬ学生、自らの思考を停止し、他人に人生の判断をゆだね、従順な人間をつくり出す世の中がどんなに恐ろしいものか。学生たちを痛めつけることを即刻やめよ！ 彼らを釈放し自由を与えよ！ 邪悪な人たちを追放し腐った体制を即刻解体せよ！

◇長谷川ユキ（スタンダード・ヴァキューム石油自主労働組合） 8君を即時釈放しろ！ 法大当局、総長増田を徹底弾劾、断罪する。

全世界の労働者の未来をかけて、  
**国鉄1047名解雇撤回!!**  
生きさせる！派遣法撤廃！



**11.1**  
2009  
改憲・戦争と民営化・労組破壊にたち向かう労働者の国際的団結を  
11月1日（日）正午開会  
東京・日比谷野外大音楽堂  
**全国労働者総決起集会**

## 11・1 全国労働者総決起集会

日時：11月1日（日）正午開会

場所：東京・日比谷野外大音楽堂

呼びかけ：全日本建設運輸連帯労働組合・関西地区生コン支部、全国金属機械労働組合・港合同、国鉄千葉動力車労働組合

\*昨年までの取り組みなど、詳しくは「動労千葉」のホームページで見られます。

## 職場での取り組みの報告

### <8・30大行動>を通して

宮城・自治体青年労働者S

8月30日に仙台市で行われた「法政大での学生弾圧を許さない！ 8学生を取り戻そう！ 団結して暴処法をぶっ飛ばそう！ 8・30大行動」を通して感じたことを述べたいと思います。

この大行動において、私も呼びかけ人の一人として実行委員会へ参加してきました。そのきっかけとなったのが、6月29日発行の全国声明運動ニュースを読み、6月14・15日の連続行動に参加していた自分も何かできることをやらなきゃいけないと思い、7月になって職場で、呼びかけ文・賛同署名用紙やニュースと共に動労千葉物販を回覧したことからでした。

結果として、25名の組合員に回覧したうち15名からの賛同署名が得られ、ほとんどの仲間からはメッセージがあり、公表も可という書き込みも数名から寄せられました。

この取り組みを始める前は、数人でも集まればいいという気持ちでしたが、予想以上に署名が集まり自分でも驚き、興奮してしまいました。

どうしてなのかを考えてみると、私が職場で組合の中央委員をやっているという事実もあって、やはり現場の労働者が持っている怒りの気持ちが賛同につながったのだと思います。

そして、法政大学で起こっている弾圧とは大学だけの問題ではなく、自分たちの職場で起こっている問題とどこか共通していると感じたからだだと思います。

人事評価等により競争させられたり、ノルマを与えられて労働強化を強いられたり、利益に

ならないサービスが切り捨てられていたり、労働者はだまって当局の言うことに従っていかばいいという状態になっています。

また、「新版 甦る労働組合」を教材にした学習会と一緒にやっている青年労働者の仲間が、法大のDVDを見た後にメールで私に感想をくれました。

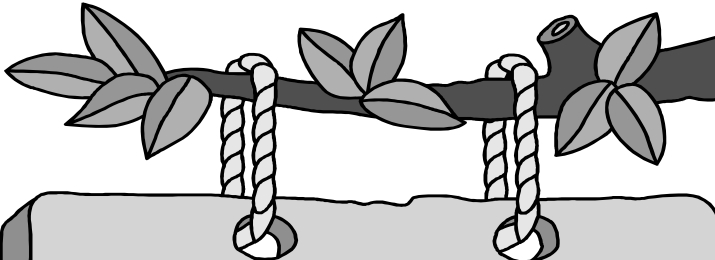
「法大の映像で写っていた、ただ立って見ていることしかできない教員の姿と、今の組合の姿は残念だけど一緒かもなぁと感じましたよ。」と。

現場の組合員は感じ始めていると思います。今の組合のままではいけない、自分たちの手でたたかう労働組合に甦らせなければいけないということ。

「一人の仲間も見捨てない」という法大の団結のように、たたかう組合を職場からつくっていかねばいけないということ。

その団結の力で、11月労働者総決起集会に1万人が結集すれば、新たな展望をひらくことができるのだと思います。

全国のたたかう仲間の力で全国声明賛同署名を10万集めて、共に11月に向かいましょう！



▼ホームページ（ブログ）ができました！  
URLは→ <http://bousyohou8.seesaa.net>  
▼職場・地域の報告などお寄せください  
アドレスは→ [bousyohou8@yahoo.co.jp](mailto:bousyohou8@yahoo.co.jp)

### 追悼



法政大学生運動、東北大学生運動を物心両面にわたって支援して下さっていた全金本山労働組合（宮城県）の熊谷春男さんが、7月21日、不慮の事故でお亡くなりになりました。ご冥福

をお祈り致します。

（右のメッセージは生前、全国声明に寄せてくださったものです）。

「マサミちゃんはじめ8名の学生は完黙で頑張ってください。体を大事にしてください。よく食べてくてください（むずかしいでしょうけども）」

熊谷春男（くまがいはるお）さん

1968年9月、本山製作所に入社。1971年、組合員の不当解雇に対して「一人の首切りも許さない」と怒りをもって解雇撤回闘争を闘い、72年にご自身も不当解雇。以後34年間にわたる長期争議の末、2005年3月16日にみごと解雇撤回を勝ち取り、現職復帰を果たす大勝利をおさめました。

## 熊谷春男さんへの追悼文 —獄中で闘う倉岡雅美さんから—

### 最愛なる春男さんによせて

東拘で春男さんの死を知ったときは、とても信じられませんでした。どうして春男さんを連れ去っていったのですか？ 今すぐ私たちの元に返してほしい。そんな気持ちでいっぱいです。

3月に法大救援会にカンパを寄せてくれた振り込み用紙の通信欄には「雅美ちゃん朋ちゃんががんばれ！」と書いてあり、私はうれしくてうれしくてお守りにしていました。春男さんは私が仙台にいるときも離れてからもいつも私を励ましてくれていました。

深田さんから、「何もわからず本山門前に行き、初めてスクラムを組んだ相手が春男さんだった。これが労働者かと感じた」ということも聞いた覚えがあります。

まじめで率直で素朴で素直で春男さんそのものが労働者そのものの姿だったと思います。労働者とはいかなる存在か、誇り高い労働者の姿を春男さんの存在そのものが常に学生に示してくれていました。

いつも見守っていてください。必ず勝利に導きます。（9月8日）

8月30日、東北地方の学生・労働者が呼びかけて集会・デモが行われました。報告が届きましたので掲載させていただきます。



8月30日、仙台弁護士会館で「法政大での学生弾圧ゆるさない! 8学生を取り戻そう! 団結して暴処法をぶっ飛ばそう!」

う! 8・30大行動」を行いました。集会には、東北各地から青年労働者をはじめ100人をこえる労働者・学生が結集しました。

集会では、同じ暴処法弾圧である5・27国労臨大闘争弾圧の弁護団・山本志都弁護士が講演を行い、「なぜ暴処法弾圧なのか。それはいまの時代ということを見なければいけない。全学連と文化連盟が団結していたからだということのをきっちりと押さえる必要がある」「暴処法弾圧は闘えば勝てる。弾圧を恐れず、暴処法を引き出し、これを打ち破っていく闘いをともにやっていきたい」と力強く訴えました。

つづいて、暴処法弾圧被逮捕者の文化連盟・洞口朋子さんが特別アピール。「私は5月16日に沖縄で逮捕され、『仲間を裏切れ』という

取り調べを行われたけれども、獄内外の仲間の団結があったから弾圧を打ち破ることができた。8人の学生を取り戻すために全国声明運動を広げよう」。この熱烈な訴えに、会場からは万雷の拍手が沸きあがりました。

集会呼びかけ人として尽力していただいた弁護士から裁判員制度廃止の訴え、解雇撤回・JR復帰を闘う国労秋田闘争団の小玉忠憲さん、さらに東北大の学生や教育労働者、自治体の青年労働者などから暴処法弾圧粉碎、11月1万人結集へ向けての決意が述べられました。

宮城では、この行動に向けて1ヶ月で6千枚のチラシをまき、300筆の全国声明を集めてきました。街頭では、8月17日にテレビ放送された「報道発ドキュメンタリー宣言」を見たという労働者が、「社・共ではダメだ」と言って集会に参加してくれました。

「8学生を取り戻そう」という運動が街頭や職場で新たな団結をつくりだしています。8・30自民党崩壊はさらにこの団結を拡大していくチャンスです。全国声明を徹底的に職場で、大学で、地域・街頭で広め、11月1万人の労働者の団結で8学生を取り戻しましょう!

写真は、集会後「暴処法弾圧をぶっ飛ばそう」と仙台市内を元気にデモする参加者



## 8名の学生がいる東京拘置所に差し入れに行こう！

8名の学生は現在東京拘置所に勾留されています。東京地裁の「接見禁止決定」により、不当にも8学生は弁護士としか会えません。そうした中で、獄中の学生とつながるひとつの方法が「差し入れ」です。



↑東京拘置所に差し入れに行ってきました

東京拘置所前の「池田屋」で代金を払えば、お菓子、缶詰、生花などが差し入れされます。獄中の学生には「◎◎さんからの差し入れ」とわかります。差し入れで、獄中の仲間はとも元気になっています！！

### ※東京拘置所への行き方

【住所】東京都葛飾区小菅 1-35-1

\* 東武伊勢崎線小菅駅下車

徒歩約10分

\* 営団千代田線綾瀬駅下車

徒歩約15～20分

## 獄中に差し入れる本を提供していただけますか？

獄中の学生たちは、「この機会を活用して学習したい」と意欲満々です。マルクスやレーニンの著作、歴史の本などいろんな差し入れの要請があります。

差し入れ用の本を提供していただけますか？ 「こんな本があるけど？」などご連絡いただければ、すぐ対応させていただきます。よろしくお願いします。

## カンパにご協力をお願いします

すでに多くのみなさまから救援カンパを寄せていただきました。心から御礼申し上げます。

その上で、まだまだ圧倒的に不足していま

す。全国声明運動を広げるための郵送代、弁護士費用など日常的にも経費がかかります。圧倒的なカンパをよろしくお願いします。

### ★カンパ送付先

◎郵送 港区新橋2-8-16 石田ビル4階 救援連絡センター気付「法大弾圧救援会」

◎銀行振込 三菱東京UFJ銀行 錦糸町駅前支店

普通3520695「ハウダイダンアツキュウエンカイ」

◎郵便振替 00160-0-585187「法大弾圧救援会」

※今、法政大で何が起きているか…  
YouTubeでぜひ動画を見てください。

「法政大学の真実」

→検索